

三菱東京UFJ銀行 導入事例



MUFGグループのビジネスを支える中核銀行として多彩な金融サービスを提供する三菱東京UFJ銀行。
国内外を問わず、グローバルにお客さまの多様なニーズに応えながら、新しい分野の開拓と新しい技術の開発に取組み、高品質な金融サービスを提供し続けている。

法人向け為替予約インターネット・サービス「BizSTATION FOREXサービス」をリアルタイム型リッチクライアント・プラットフォームで実現

法人顧客に対し為替予約などの機能を提供するインターネット・バンキング・サービス「BizSTATION FOREXサービス」にNexawebを採用。
リアルタイム配信を実現するプッシュ型のリッチクライアントアプリケーションで、既存の企業と銀行間の取引システムを変革した。

導入背景と課題

- ・自社サービスで他行を上回るサービスを提供したい
- ・最新の為替情報をユーザに伝えるプッシュ型で配信したい

MUFGグループのビジネスを支える中核銀行として多彩な金融サービスを提供する三菱東京UFJ銀行。国内外を問わず、グローバルにお客さまの多様なニーズに応えながら、新しい分野の開拓と新しい技術の開発に取り組み、高品質な金融サービスを提供し続けています。

今日では多くの銀行がインターネットを用いた金融サービスの提供に力を入れています。三菱東京UFJ銀行の「BizSTATION」は、オフィスのパソコンから、スピーディに銀行取引が行える、ビジネスのための法人向けインターネットバンキングです。

これまで、円預金サービス、総合／給与振込サービス、外為サービス等を提供していました。

為替予約サービス（これをFOREXサービスと呼ぶ）については、法人向けインターネットバンキングBizSTATIONのオプションラインナップとして、一新したいというニーズがありました。

そこで、より顧客ニーズを高めるべく新しくシステムの開発を行うことになり、重要視したのがリアルタイム配信を実現するプッシュ型のシステムでした。

採用の理由

- ・プッシュ型を標準装備し、リアルタイムでデータの配信が可能
- ・オープンスタンダードな技術をベースにリッチクライアント実装が採用の決め手

今までは、Web上でリアルタイムにデータを各PCに配信するには、各PCからサーバにリクエストを送信、もしくは特別なポートを開放する必要がありました。各PCからリクエストを送り、擬似的にリアルタイムのデータ更新を実装した場合には、規模感のあるシステムではサーバへの処理負荷が高まり、レスポンス悪化が懸念されていました。

そこで三菱東京UFJ銀行では、顧客のニーズを満たし、かつ最適なソリューションを提供できるものを探すべく、海外製品にまで対象を広げて調査しました。その結果、プッシュ型で情報を配信するという要件を満たすWeb開発ツールとして最終的に白羽の矢が立ったのがNexawebでした。

Nexawebを採用した理由について、システム部市場証券グループの三浦清朗 上席調査役は、「Flashを利用するAdobe Flexを使うよりも、コンテンツのダウンロード時間を短縮できるためです」といいます。Nexawebで提供されるリッチクライアント環境ならば、たとえば銀行内部の為替レートに変更があれば、変更データだけをパソコンに送るだけですみます。

そのほかにも、優れた操作性・見栄えの良さやリアルタイムデータ配信（サーバプッシュ）機能を標準で有している点、画面差分更新機能などの企業向けシステム機能が充実していることにより、高性能なWebシステムが実現できる点、JavaやXMLといった標準技術のみで実現できる開発・運用環境である点などがあったそうです。

導入にあたっては、システムアーキテクチャ選定を担当されていたシステム部市場証券グループの松井雅弘調査役は、事前のキャパシティ設計を入念に実施し、その可能性に惹かれて同ソリューションを採用したのです。銀行の中でもチャレンジングなシステムでしたが、プロトタイプによるトライ&エラーを繰り返しながら、細かに評価していくことでプロジェクト期限厳守と各種要件の充足の両立を果たすことができました。

BizSTATION FOREXサービスは、2006年11月から本格的な販売を開始しています。



導入システム概要

- ・幅広いクライアントへの対応
Javaならではの高性能にも期待

Nexawebを採用した「BizSTATION FOREXサービス」の開発には、日立製作所と日立システムアンドサービスも参加しました。

Nexawebが稼動しているハードウェアにはLinuxブレードサーバを採用し、インフラ面でのフレキシビリティも確保されています。

導入効果

- ・わかりやすい操作性とレスポンスを
共通のインターフェイス環境で実現
- ・開発の効率化と品質向上によるコストと納期の削減

Nexawebによって実現されたアプリケーションでは、クライアント側では更新されたデータの差分だけを受け取り、必要な部分だけ画面を変更することができるので、普通のWebブラウザのように画面を全部リロードする必要がなくなり、より迅速な為替データの表示が可能となったのです。そのためエンドユーザから見れば、自動的に新しいニュースが画面に表示される印象を受けます。

また「為替予約締結」ボタンを押してから瞬時に実行できるほか、事前に指定した為替金額に達するとアラームを鳴らしてお知らせするといったこともできるようになったのです。



今後の展望

- ・サービス機能の強化にもNexawebを検討
- ・よりユーザの使い勝手のよいシステムを目指す

今回Nexawebを採用した三菱東京UFJ銀行では、基本設計の段階からデモ画面により、一部企業ユーザのニーズも確認しながら行うなど操作性に重点をおいてきたといいます。今後ともユーザの声を反映した使いやすいシステムを目指していくとのこと。システム部市場証券グループの山崎博之調査役は「ITを積極的に使いこなし、さらなるサービス強化を目指す」と述べています。

インターネットを元に、そこで動くアプリケーションをビジネスに活かしていく様々なWebシステムが登場し、いまでは普通のビジネスの道具として利用されています。最近では「Web2.0」というキーワードで、このようなITシステムの発展や利用を説明していることも増えてきました。Nexawebのリッチインターネットアプリケーションも、Web2.0の流れを牽引するようなポテンシャルを持っています。

三菱東京UFJ銀行では、Nexawebによるリッチなアプリケーションを実現し、ここで取り上げたような企業の根幹となるような為替取引システムを実現しました。また、三菱東京UFJ銀行では、ABCP(資産担保型コマースャルペーパー)管理システムにもNexawebを起用し、行内業務の維新・改善を図っています。これらのインターネットシステムは、銀行内外における既存取引システムやサービスを大きく変えていくものともいえるかもしれません。



三菱東京UFJ銀行 システム部
三浦 上席調査役

三菱東京UFJ銀行 システム部
山崎 調査役

三菱東京UFJ銀行 システム部
松井 調査役

■名称	株式会社三菱東京UFJ銀行
■設立年	大正8年8月25日
■本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号
■事業内容	金融業及びその他付帯業務
■頭取	畔柳信雄
■資本金	996,973百万円
■従業員数	29,844名(2007年3月末)
■URL	http://www.bk.mufj.jp/



※Nexawebは米国におけるNexaweb Technologies, Inc. の登録商標です。
 ※本カタログ中の会社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。
 ※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。
 ※製品の仕様は、改良の為予告なく変更する場合があります。
 ※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。



株式会社 日立システムアンドサービス

【営業統括本部】

〒108-8250 東京都港区港南2-18-1 (JR品川イーストビル) Tel.03(6718)5819
 〒451-6028 愛知県名古屋市中区牛島町6-1 (名古屋ルーセントタワー) Tel.052(569)2111
 〒556-0011 大阪市浪速区難波中2-10-70 (パークスタワー) Tel.06(6647)9400

メールによるお問い合わせは…………… nexaweb@hitachi-system.co.jp

<http://www.hitachi-system.co.jp/nexaweb/>